

# 針葉樹会春の懇親山行 甲州高尾山(1091m)と棚横手山(1306m)

2012年3月4日(日)

8:45



この稜線から見える山々は見事なもので、山座同定を始めると時間を忘れます(計画書より)。

—ただし、晴れば



大滝不動尊



遠藤、三井、町田、小宮山、中村、佐藤、中田、本間、佐薙、小島

見事な大滝が覆いかぶさる





学生二人が参加。おかげで平均年齢はいつになく若返る。不動尊から始まる登山とはなかなか渋いとは思ったが、実はよくあることか。神殿が派手すぎて山の中とは思えないせいか。





寒い冬だった。こんな所の滝も見事に結氷している。



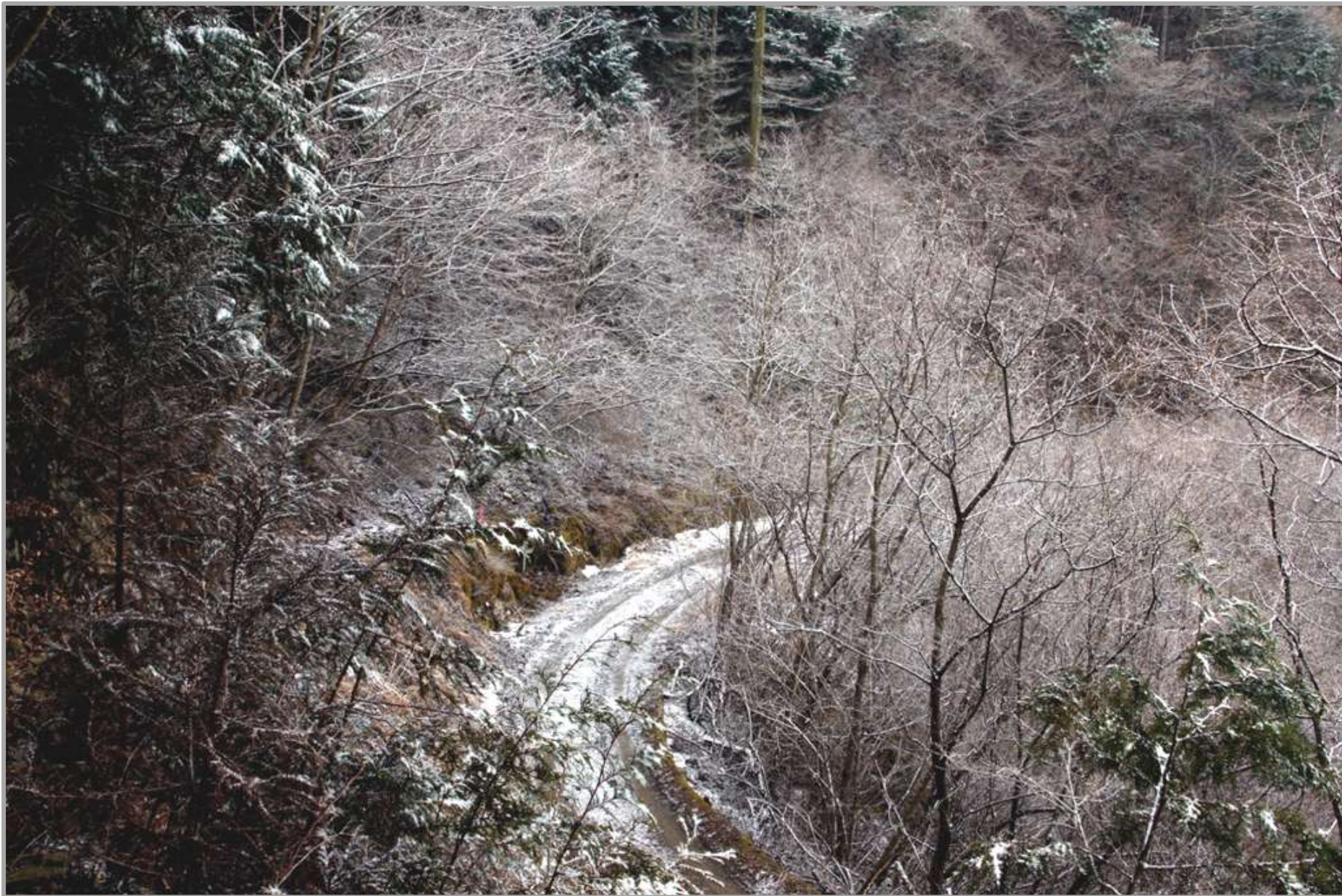
見下ろす大滝不動尊と滝





林道と登山道があちこちで交錯する





林道のわずかな雪は轍の凸凹に応じて色をたがえ、枯れ枝は白く際立つ。初春の山の朝だ。



雪を期待したがほとんど無い。しかし、刷毛ではいたような微妙な薄化粧がみごとだ。



11人の男たちがひっそりと杉林の中を進む。チベットのラマ僧の行列の様で、おのずと祈りがわきあがる。

10:30



不動尊から45分で  
明るい稜線に出る。  
見えるはずの山々は  
霧の向こうで見えない。







造林と萱ヶ原。この一帯の典型的な景観だ。

東側  
1413mピーク



南側  
笹子雁ヶ腹摺山方面



# 火気厳禁 たばこ厳禁

- ここでは、過去何度も大規模な山火事が発生しています。
- その度に尊い森林を焼失し、計り知れない多くの人々が消火活動に携わってきました。
- 山火事を今後発生させないためにも、登山をされる方は山での火気は絶対使用しないでください。

< 深沢地区における過去の山林火災 >  
 平成 5年4月 75ヘクタール焼失  
 平成 9年3月 375ヘクタール焼失  
 平成 19年4月 20ヘクタール焼失  
 平成 21年4月 92ヘクタール焼失

山梨県峡東林務環境事務所



平成になって既に4度も山火事が起こり、南面は明るく開けている。香港の山と同じだ。



甲州に入る前後の中央線沿線の山。これは電車から見上げるだけで気になりながらも抜け落ちていた山域だ。懇親山行で岩殿山、高川山と歩き、後は滝子山、鶴ヶ鳥屋山、笹子雁ヶ腹摺山、そして甲州高尾山が残っていた。今回はその甲州高尾山に出かけると言うので最後の最後に参加を申し出た。学生2人を含めて総勢11名。列になってみるとなかなか壮観だが、かつての20数人と言う規模からすれば寂しいものがある。多くの方が旅立たれた去年の意味が改めて思われる。残念ながら雪は少なく、しかも冷たい曇りで展望もきかず、うたい文句の様にはゆかなかった。しかし、杉林の中を黙々と歩く男たちの背からはこうして山を歩けることへの感謝の思いのようなものがあふれ出ていた。自分の体を高みまで持ち上げ、そして松の香りや、枯れ葉のにおいを感じながら稜線の上下のリズムに体を預ける。そのことが出来る嬉しさを感じられる山歩きだ。



北の棚横手山に寄り道してから戻って、今度は南の甲州高尾山に向かう。山火事後の枯れ草の道が続く。



11:40



佐藤さん=チャイ係



甲州高尾山の上で  
本間さんかねて準備  
のトン汁大会。  
鍋を出す人、コンロ  
で汁を温める人、食  
べるだけの人。  
自然にそれなりの役  
割分担が出来る。  
それにしても寒さの中  
でトン汁は最高のも  
てなしでした。  
本間さん改めてあり  
がとう。

佐藤さん=あっため係





13:00





トン汁に満足して中央線のトンネルの上を中央高速道に向かって飛びこむ様に下って行く。

甲州高尾山(1091m)

棚横手山(1306m)

変哲もない突起。しかし、そこを歩いてみればいかにも様々な自然があふれている。





足元は土でも岩でもない。枯れた草付きだ。  
重い靴音は柔らかく吸いこまれて静かな歩行が続く。





下りは体重がドンドンとかかるだけにやはり膝に来る。  
毎日のスクワットで訓練をすればよいのだろうが、まあ、  
次第にクッションが無くなるのはいた仕方ない。  
ようやく大善寺の山門が見えてきた。その周りは今や  
ぶどう畑ばかりだ。



14:30

14:50



拝観料に恐れをなして真言宗智山派大善寺には誰も近づかなかったが敢えて境内に忍び込んでみれば巨大な檜肌葺の薬師堂は見事の一語に尽きた。高野山の御影堂も見事だが、ここはそれに圧倒的な力強さがある。

平安時代前期(718年)、法相宗僧行基が近くの日川溪谷で修業の折、夢の中に葡萄を持った薬師如来が現れ、満願を果たし、その如来像を建立したことが寺の紀源とか。だから寺の周りは葡萄畑か？武田勝頼が岩殿城に向かう折、この寺で戦勝祈願をしたが効は無かった。当時この寺には信玄の従妹に当たる理慶尼が身を寄せていた。勝頼が天目山で自決するまでを記録した理慶尼の武田滅亡記がこの寺に残っているとのこと。歴史は深い。



15:45



勝沼ぶどう郷駅は正規の駅員はいないようで地域のボランティアが運営している。  
おかげで待合室もトイレもとてもきれいだ。  
帰りの電車に乗るころには今日の作業が終わったのか、駅構内のバーで酒盛りが始まっていた。  
葡萄のお寺大善寺、そして葡萄で生計を立てている町民。何だかバランスがとれている。  
ワンカップワインを飲んで陶然となり、高尾行き鈍行に乗りこむと気持ちよく睡魔の虜になった。  
お疲れさまでした。